

5-2 東海・南関東地域の地震活動（1993年11月～1994年4月）

Seismic Activity in the Tokai and Southern Kanto Districts (November, 1993—April, 1994)

気象庁地震予知情報課

Earthquake Prediction Information Division
Japan Meteorological Agency

第1図a～fは1993年11月～1994年4月の東海・南関東地域における月別震央分布図，第2図a・bは1993年11月～1994年1月と1994年2月～4月の3か月毎の震央分布図を示す。いずれも震源の深さが90km以浅の地震の震央を示してある。第3図a・bは1993年11月～1994年1月と1994年2月～4月の3か月毎の主な地震の発震機構解である。この期間，特に目立った地震活動としては，1994年2月末から3月にかけての伊豆半島東方沖の群発地震，同年2月の三宅島近海の地震，同年3月の新島から神津島にかけての群発地震，などがある。また，上図の範囲外であるが1993年11月に茨城県沖でM5クラスの地震が相次ぎ発生している（本巻別項参照）。

東海地域は，浜名湖付近や愛知県内そして駿河湾内でM3クラスの地震が発生した他はほとんど目立った活動がない。伊豆半島東方沖の活動は昨年5月末から6月下旬にかけて発生して以来¹⁾のもので，2月27日城ヶ崎沖のM3.8の地震を最大とするものであるが，その後順調に活動が低下した。新島・神津島近海の地震活動は同年2月の三宅島近海の地震活動の隣接地域で3月中旬に活発化した²⁾が1週間以内に活動が終息した（それぞれの活動については本巻別項参照）。

各月の活動状況は次のとおり。

1993年11月：図の範囲外ではあるが茨城県沖でM5.5（9日5時48分，深さは46km）の地震が起こった。この地震による震度の最大は2（水戸，銚子など）であった。ほぼ同じ場所でこれを含めM5以上の地震が3個，M4クラスが7個発生した。21日にはこの約80km西でM4.6の地震が発生した（水戸，銚子で震度2）。東海地域は静穏であったが，15日に東海道はるか沖でM5.5の深発地震（深さ378km）が発生している。

1993年12月：東海地域に関しては静岡県内と愛知県中部でM3クラスの地震が散発した。新島と神津島の付近ではM3クラスの地震が5個発生しており，いずれも神津島で震度3を観測した。茨城県沖では13日にM5.2の地震があり，水戸で震度3，福島，柿岡などで震度2，東京，横浜，千葉，銚子などで震度1を観測した。この地震の4分後にはM3.9の余震が発生し水戸と柿岡で震度1を観測した。また埼玉県北部では31日にM4.5の地震があり，水戸で震度2，日光，東京などで震度1を観測した。この他の周辺地域では，岐阜県中部で10日にM4.2，深さ7kmの有感地震があった。

1994年1月：伊豆半島東方沖では23日にM2.8の地震があり，網代で震度1を観測した。房総半島南端とその沖合でM3.9（4日，深さ96km）とM3.3（19日，深さ52km）の地震があった。新島付近では4日からM3クラスの地震を含む活動が起こり始め，5日にMの最大（3.5）の地震が起こった。この地震を含め，新島と神津島付近では31日までにM3クラスの地震が6個起こった他，三宅

島近海でもM3クラスの地震が2回あった。茨城県南西部ではM4.4の地震が発生し日光，柿岡で震度3，東京，宇都宮，水戸，熊谷で震度2を観測した。

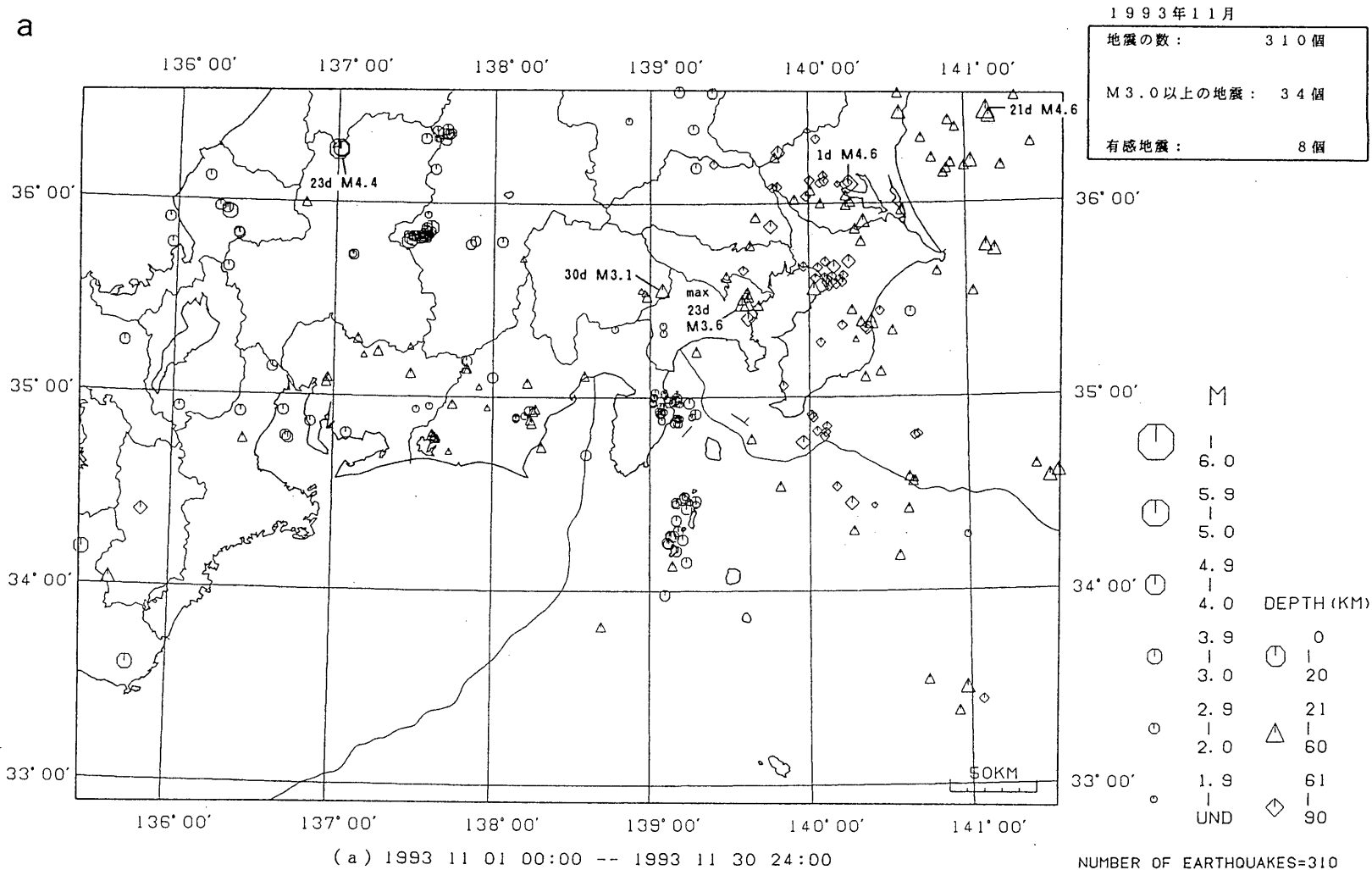
1994年2月：先月末に地震のあった神津島付近に隣接する三宅島近海で，9日と11日にM3クラスの4個の地震が発生した。この中で最大の11日8時54分のM3.9の地震である。これらの地震はいずれも神津島で有感となっている。伊豆半島東方沖（城ヶ崎沖合）では27日にM3.8の地震が発生し，大島で震度2，館山，網代，三島で震度1を観測した。東海地域では，愛知県東部でM3.7の地震が発生したが静穏な状態である。8日に東海道はるか沖でM5.6の深発地震（深さ363km）があったが，昨年11月の同地域の深発地震の震央から50kmほどしか離れていない場所である。発震機構解による主圧力軸方向はそれぞれ南北とN60°Eと若干異なるが共に逆断層型である（Fig.3）。

1994年3月：東海地域は依然静穏な状態が続いているが，2日に駿河湾でM3の地震が起こった。1昨年（1992年3月9日のM3.1）以来である。新島と神津島付近においてM5クラスの地震を3個含む活発な地震活動（1992年以来²⁾）が11日に始まり，活動中心を新島と神津島の間で南北に移しながら17日頃まで断続的に続いた。

1994年4月：6日に茨城県沖でM5クラスの地震を2つ含む活動があった。22日から23日にかけて伊豆半島東部の内陸部で小規模な活動があったが，まもなく終息した。

参 考 文 献

- 1) 気象庁地震予知情報課：伊豆半島およびその周辺の地震活動（1993年5月～10月），連絡会報，51（1994），292-309.
- 2) 気象庁地震予知情報課：神津島・新島近海の地震活動（1992年9月～10月），連絡会報，49（1993），259-268.



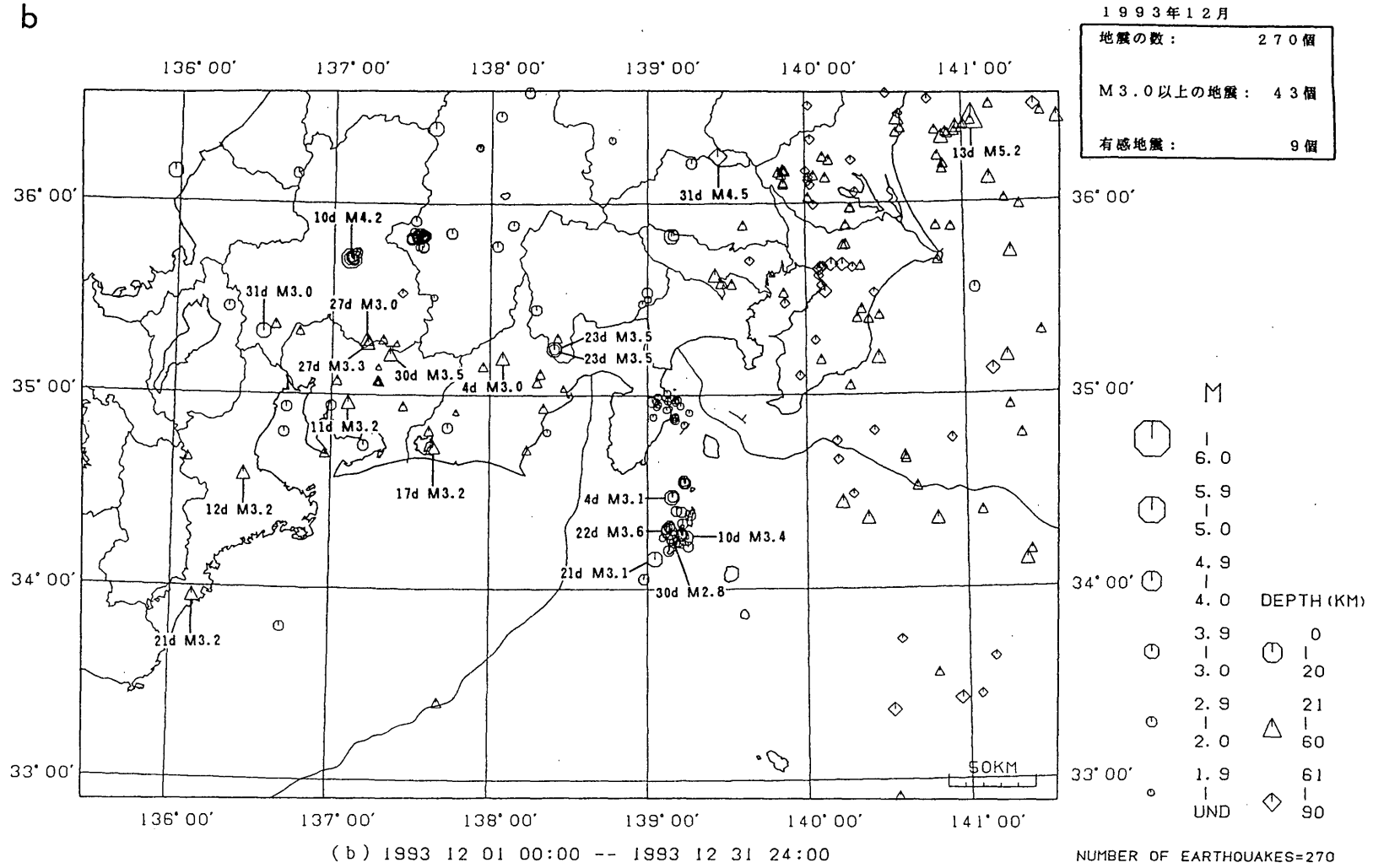
暫定

(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

第1図(a~f) 東海・南関東地域に発生した地震の月別震央分布(1993年11月~1994年4月)

Fig.1 (a-f) Monthly earthquake epicenters in the Tokai and Southern Kanto Districts for November, 1993-April, 1994.

b

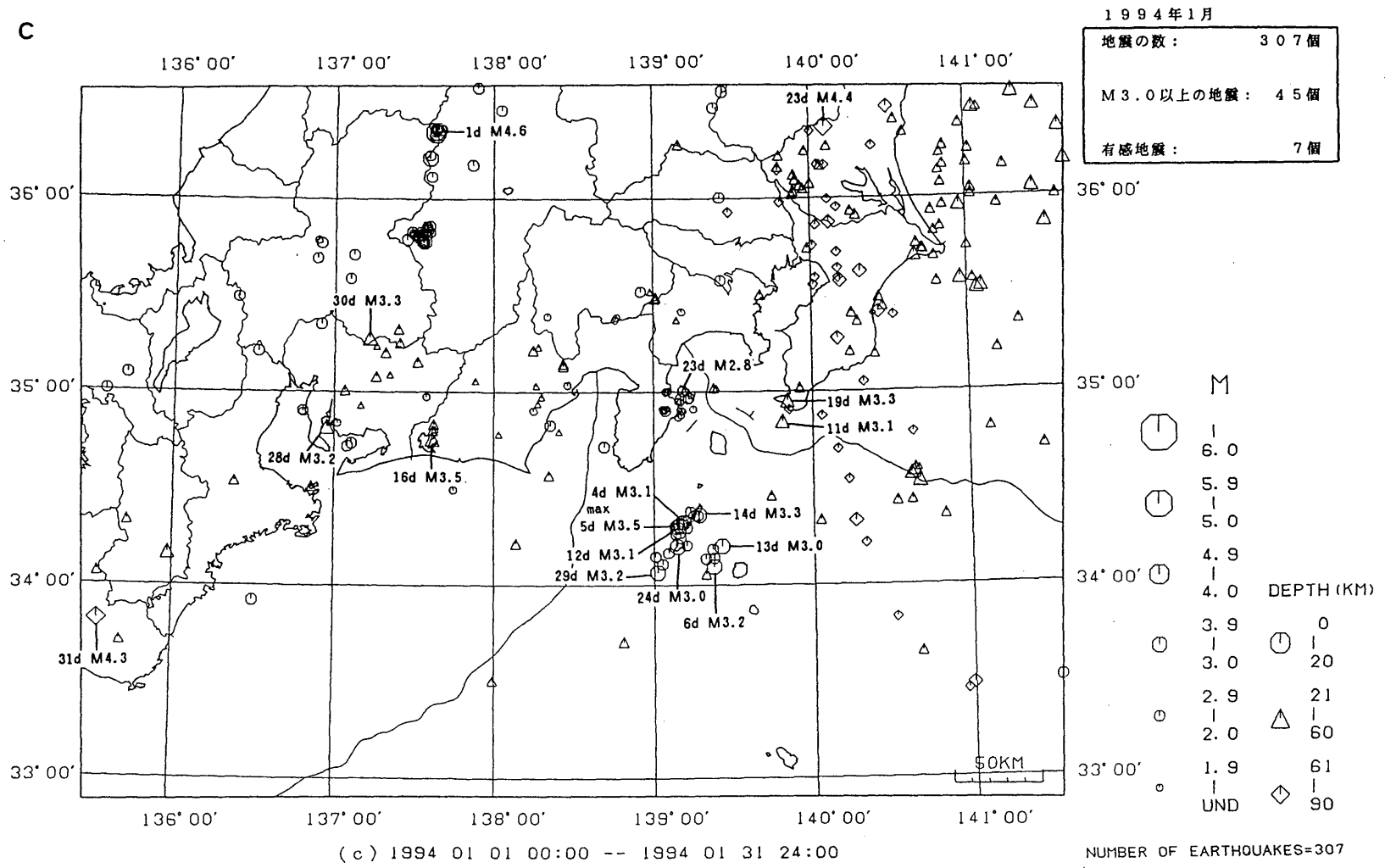


暫定

(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

第1図 つづき

Fig.1 (Continued)

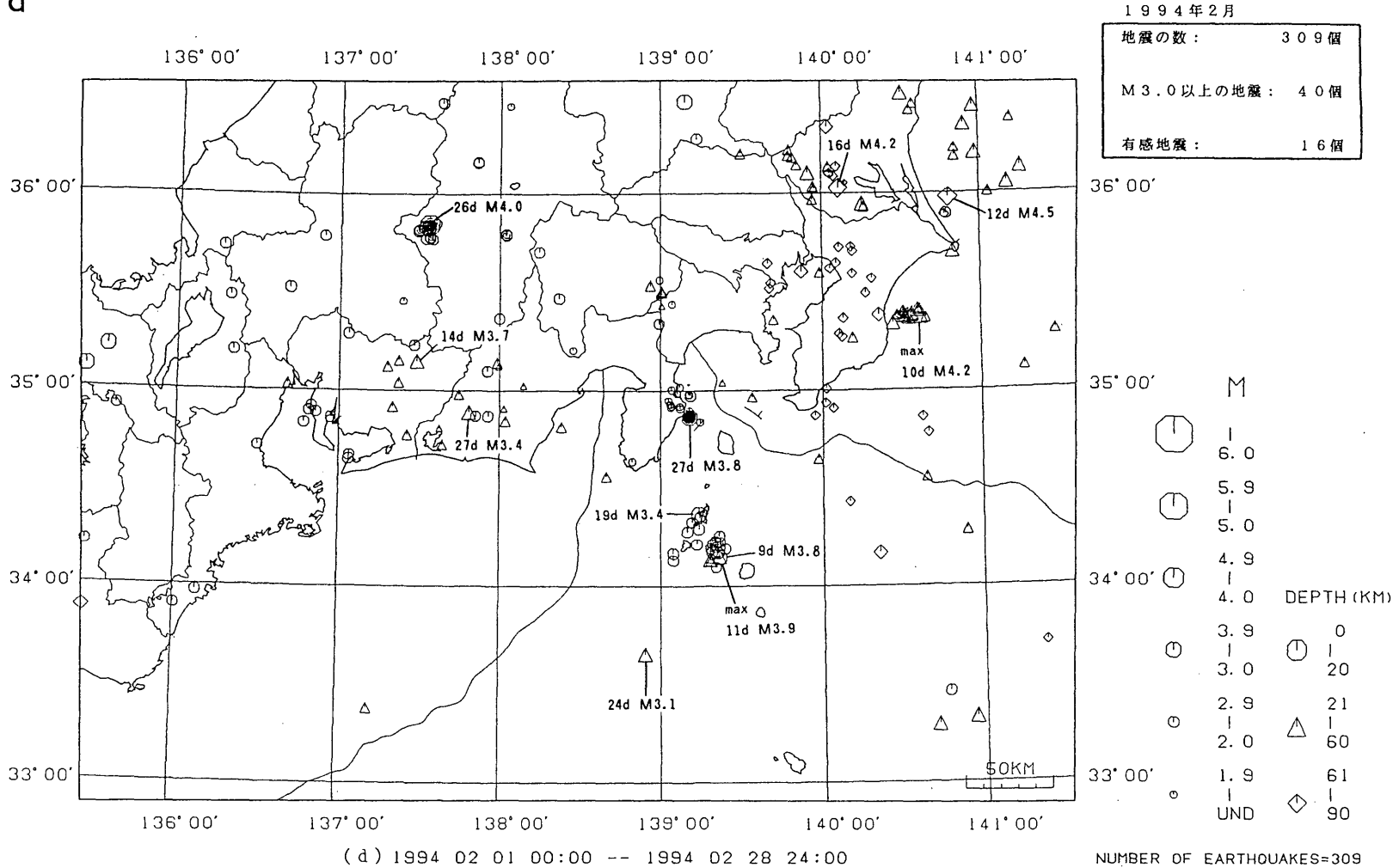


暫定

(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

第1図 つづき
Fig.1 (Continued)

d



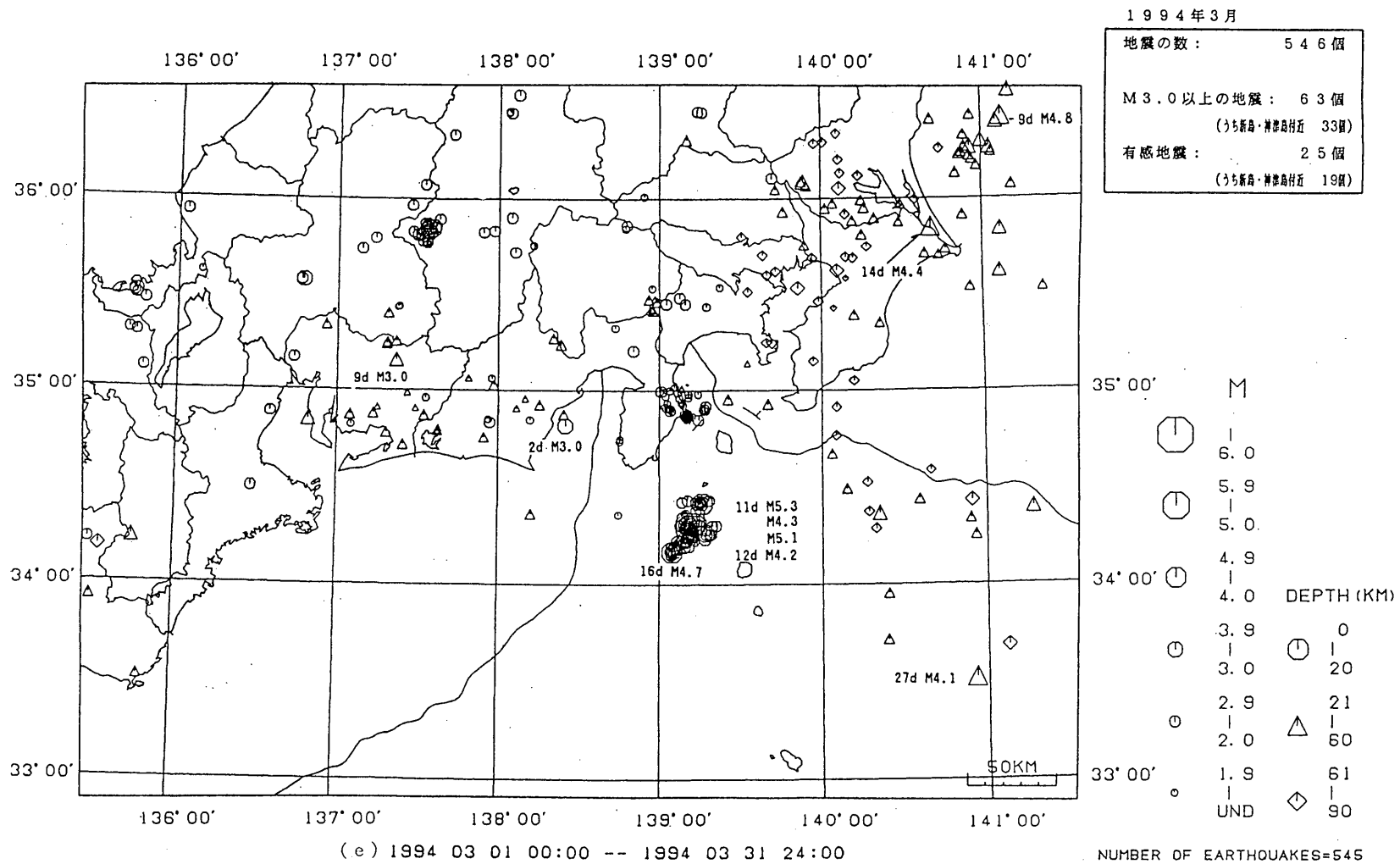
暫定

(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

第1図 つづき

Fig.1 (Continued)

e

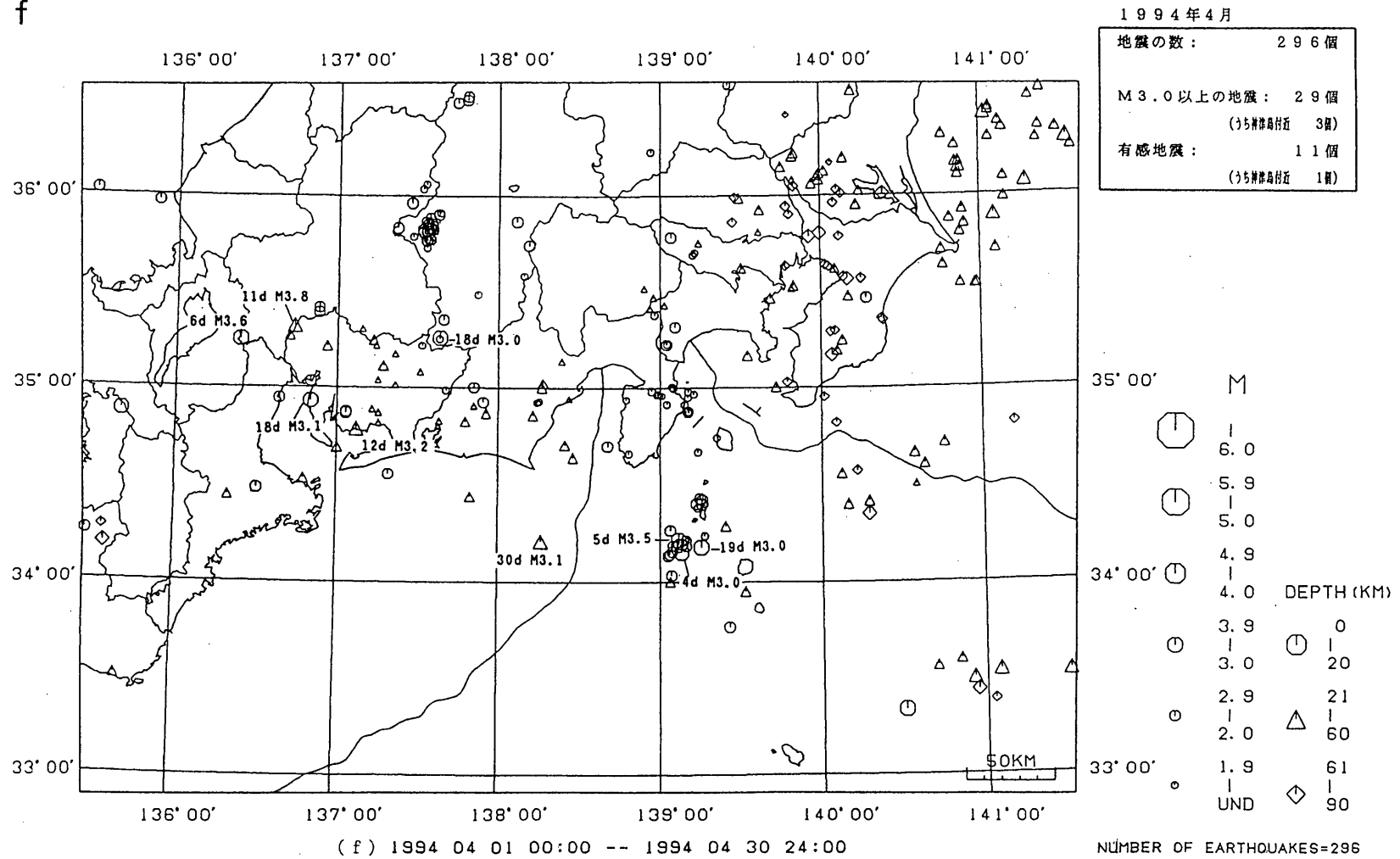


暫定

(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

第1図 つづき
Fig.1 (Continued)

f

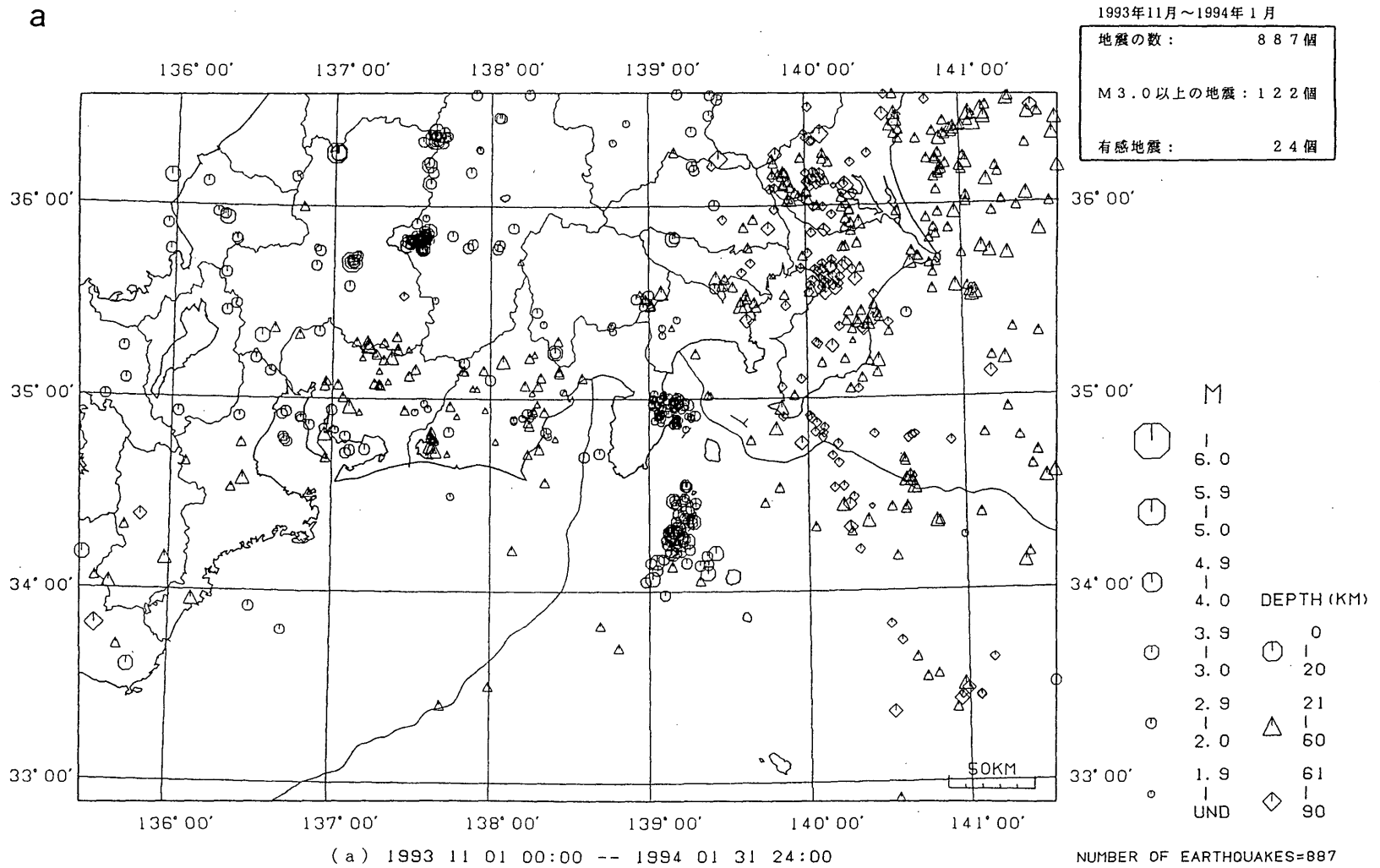


暫定

(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

第1図 つづき

Fig.1 (Continued)



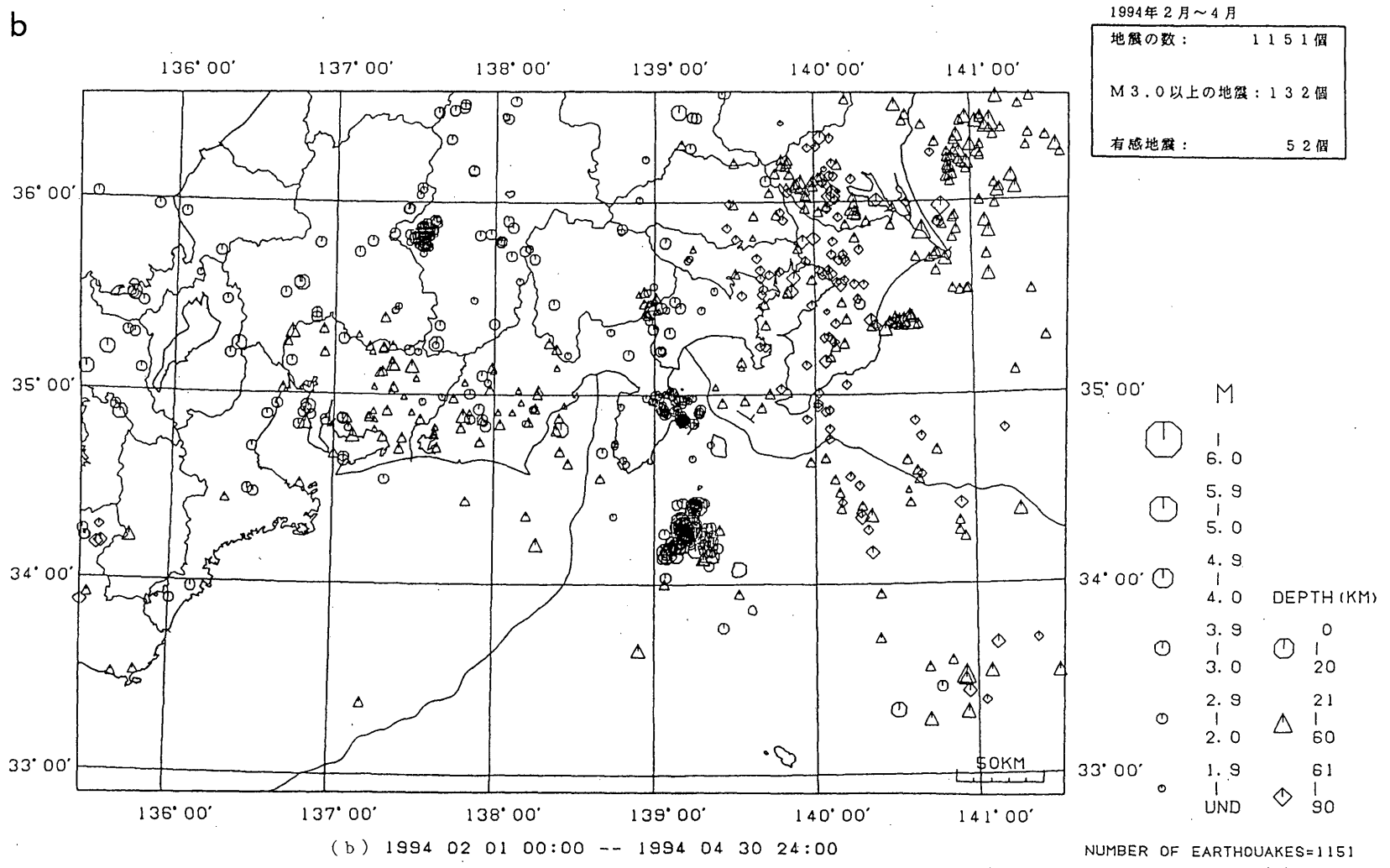
暫定

(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

第2図 東海・南関東地域に発生した地震の3か月毎の震央分布 (a:1993年11月～1994年1月, b:1994年2月～4月)

Fig.2 Quarterly earthquake epicenters in the Tokai and Southern Kanto Districts for a: November, 1993–January, 1994 and b: February–April, 1994.

b

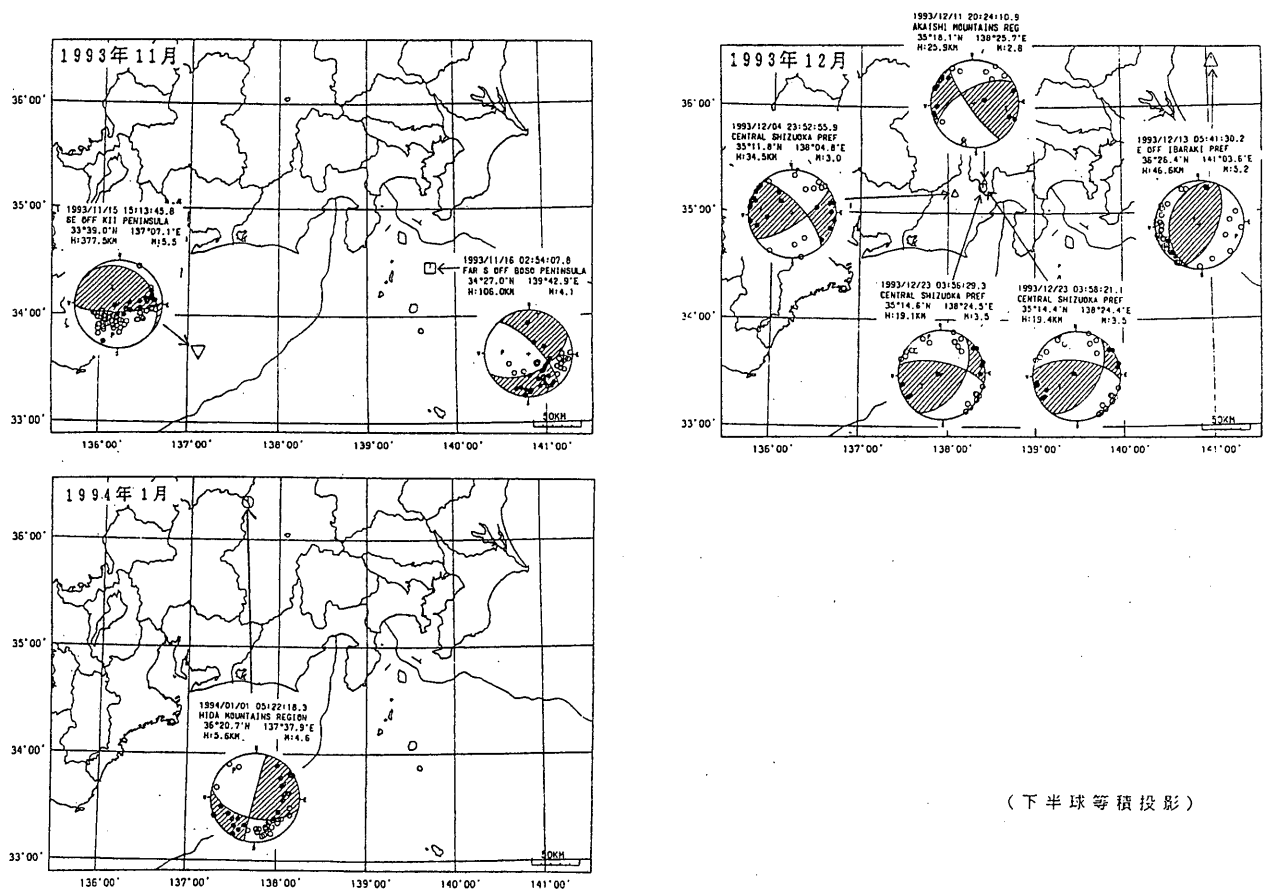


暫定

(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

第2図 つづき
Fig.2 (Continued)

(a) 発震機構解 (1993/11 ~ 1994/1)

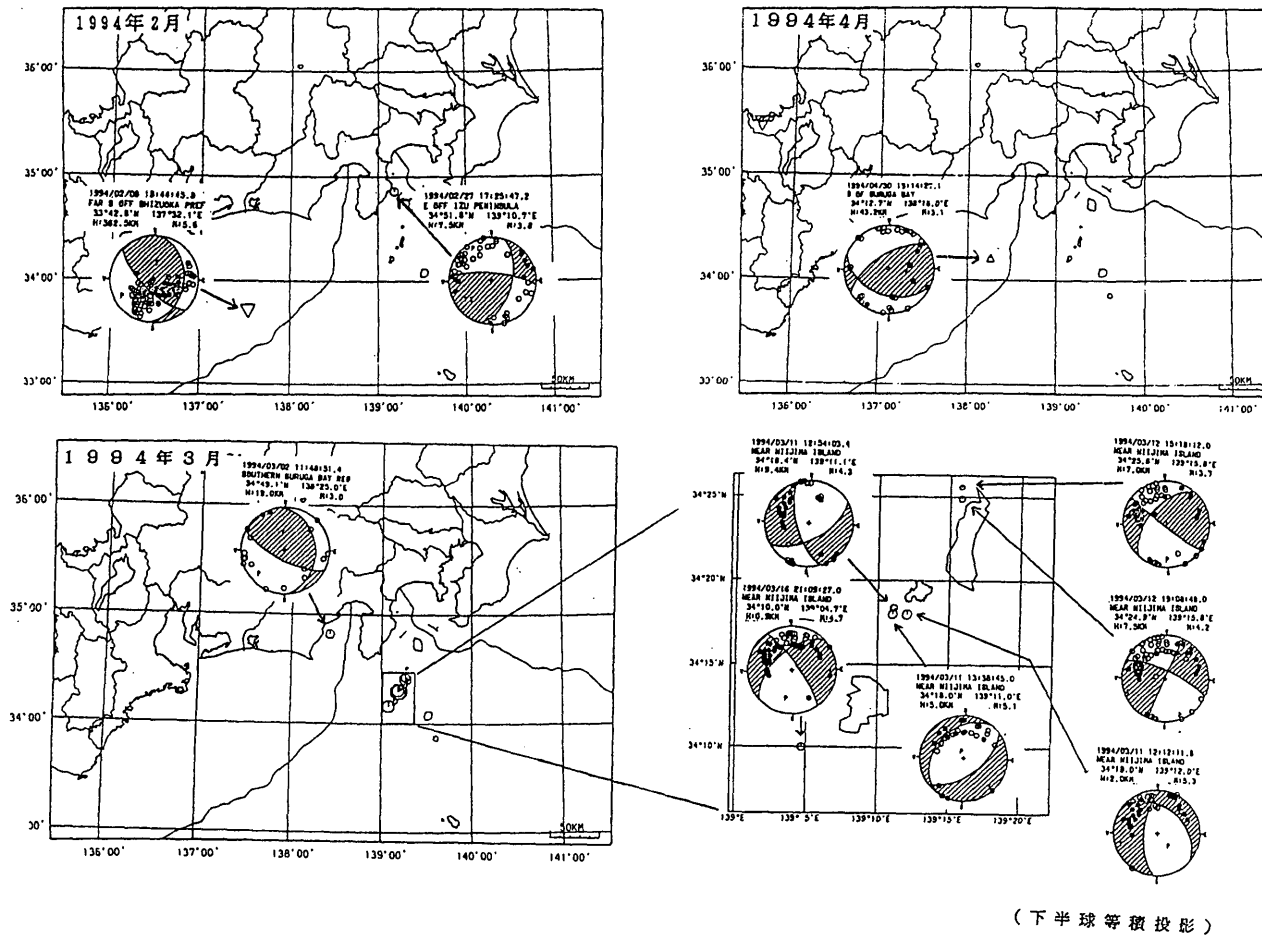


(気象庁の他、東京大学、名古屋大学、防災科学技術研究所のデータ使用)

第3図 東海・南関東地域に発生した主な地震の3か月毎の発震機構解 (a: 1993年11月~1994年1月, b: 1994年2月~4月)

Fig.3 Quarterly focal mechanism solutions of main earthquakes in the Tokai and Southern Kanto Districts for a: November, 1993–January, 1994 and b: February–April, 1994.

(b) 発震機構解 (1994/2 ~ 1994/4)



(気象庁の他、東京大学、名古屋大学、防災科学技術研究所のデータ使用)

第3図 つづき
Fig.3 (Continued)